

I-1 子どもは「生き生き」してる？

ワーク1

- 最近のあなたのお子さんが「生き生き」していた場面を思い出し、気楽に話し合しましょう。（公園では？ 自然の中では？ 室内では？）

ワーク2

- なぜ、あなたのお子さんが「生き生き」できたのか、話し合しましょう。

An illustration of three children playing in a pool. One child is floating on a ring, another is sitting on a ring, and a third is sitting on a ring. They are surrounded by blue water splashes.

資料

自己発揮が大切な4～5歳児

4歳頃には、草花や虫といった身近な自然に興味をもち、積極的にかかわろうとするようになり、認識力や色彩感覚が育ってきます。また、想像によりイメージを広げる力が高まってきて、友達とイメージを共有して、ごっこ遊びに没頭するようになります。5歳頃になると、運動能力が高まり、縄跳びやボール遊びなどの体全体を使った複雑な運動をするようになり、鬼ごっこなどで活発に体を動かすようになります。

この頃は、子どもたちが自己を十分に発揮し、生き生きと活動できることが大切です。

(厚生労働省「保育保健指針解説書」フルベール館 2008年)

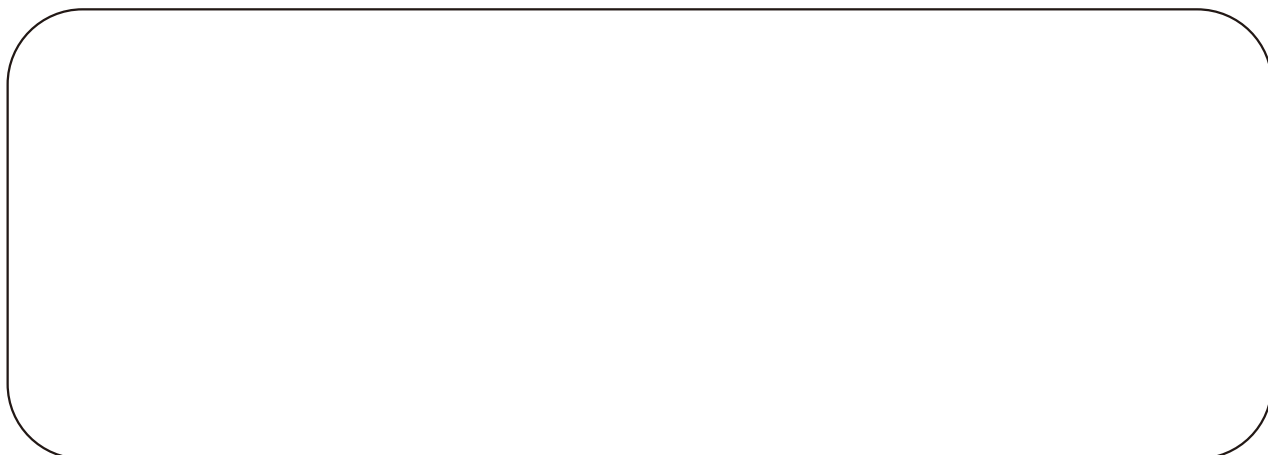
ワーク3

- お子さんが「生き生き」と活動できるように、これからどんなことをしたいですか？
出し合いましょう。



ふりかえり

- 感想を発表し合いましょう。



I-1

子どもは「生き生き」してる？

対象：4～5歳児を持つ子育て中の保護者
時間：90分程度

ねらい	4～5歳児の特徴を把握する。 4～5歳児の「生き生き」した活動を促すためのポイントを学ぶ。		
実施のポイント (評価など)	○子どもの「生き生き」した姿をできるだけ多くイメージし、子どもの気持ちへの共感が大切であることに気付くことができる。		
事前準備	○名札 ○筆記用具 ○付箋紙 ○模造紙		
時 間	学習活動	学習活動のねらいとポイント	準備物
導 入 10分	ワークの趣旨説明 ○名札づくり ○自己紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・3～4人のグループをつくる。 ・自己紹介では、氏名と今日呼んでほしい名前、今日参加した理由などをお互いに話すことでリラックスできるようにする。 	名札
展 開 25分	ワーク1 ・各自で「生き生き」していた場合について付箋紙に記入し、ワークシートに貼る。	<ul style="list-style-type: none"> ◎子どもの「生き生き」していた場面を思い出し、4～5歳児の特徴を共有することをねらいとする。 ・ブレインストーミングでできるだけ多く出すようにする。 ・書いたものを発表し合う中で、どんなときに4～5歳児が「生き生き」しているかを整理していく。 	付箋紙 模造紙
20分	ワーク2 ・子どもがなぜ「生き生き」できたのかグループで話し合う。 ・グループ内で出た意見を発表し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ◎子どもの立場になって考えることをねらいとする。 ・グループの中で発言しやすい状況をつくる。 	
30分	ワーク3 ・資料を読んで関わり方のヒントを得る。 ・実行しやすいアイデアを話し合い、ワークシートに記録する。 ・グループ内で出た意見を発表し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ◎「生き生き」した活動を促すポイントに気付き、実際にできることを出し合うことをねらいとする。 ・無理をせず、できることから行うことを勧める。 	
まとめ 5分	ふりかえり ・感想を記入する。 ・発表し合い、共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・何人かに発表してもらい、全体で共有する。 	